

脱炭素行動宣言認証者一覧

※エコ会議理事 ●エコ会議会員

2026年5月1日時点

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
1	川崎市資源リサイクル協同組合		業界団体	2030年に向け、資源循環型社会の構築については、ISO14001等の環境マネジメントシステムに関する認証は取得していないが、今後継続的に環境面の活動を改善するための環境マネジメント体制の具体的な構築を目指すようにしたい。
2	ウォータースタンド株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「使い捨てプラスチックボトルを30億本削減していきます。」
3	シンヨー株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに「事務所の省エネリフォーム（窓や壁の断熱リフォーム）」していきます。
4	三友環境サービス株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに「施設の維持管理にかかるコストや新設に伴う経費について、ライフサイクルコストを検証し二酸化炭素排出抑制事業費交付金を活用した基幹的設備改良事業を実施することで施設の継続化を実現」していきます。
5	株式会社ショウエイ	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「業務用ろ過装置の販売」「ろ過省エネシステムの販売」により、社会全体の「水使用量」「熱量」「電気使用量」を削減することで、温室効果ガス排出量を削減していきます。
6	特定非営利活動法人 産業・環境創造リエゾンセンター	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに会員企業の温室効果ガス削減2013年度比50%以上削減できるよう、会員間の情報共有、情報発信を積極的に進めていきます。 NPO法人が入居している会館が再生可能エネルギーを導入するよう働きかけを行います。 執務室の省エネ化に取り組んでいきます。
7	富士通株式会社	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、当社グループの事業活動における温室効果ガス排出量を2030年度に、バリューチェーン全体の温室効果ガス排出量を2040年度にネットゼロとする目標を掲げ、SBTiより2023年6月にネットゼロ認定を取得しました。 再生可能エネルギーについても、2030年度に事業活動における使用電力を100%再生可能エネルギーとすることを目指します。 また、サステナビリティ・トランスフォーメーションをリードする企業として、お客様・社会の課題解決にテクノロジーで貢献し、提供価値の拡大・向上を図っていきます。そしてサステナブルな未来をお客様やパートナーとともに実現していきます。
8	みぞのくち新都市株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年」までに、「ノクティCO ₂ 排出量を2013年比で9,000トン削減」していきます。
9	特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘	●	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「2010年からおむつを捨てる時にビニール袋を使わず古新聞で包んできました。12年間で250万枚のビニール袋を使わなかった結果152トンのCO ₂ の削減ができました。この取り組みは今も、これからも続けていきます。2030年までに・・・263 トン 2050年までに・・・ 530 トンのCO ₂ 削減を目指していきます。高齢者が暮らす施設だからこそ出来る昔ながらの知恵と工夫で地球にやさしい生活を取り戻していきたいと思います。」
10	ベトリファインテクノロジー株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「川崎市内で集められるペットボトルを完全循環することに貢献」して行きます。
11	東京ガス株式会社 川崎支店（旧 東京ガスネットワーク株式会社 川崎支店）	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までにカーボンニュートラルなガス【e-methane、CNL】を普及促進していきます。
12	一般社団法人 神奈川県トラック協会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「上部団体である公益社団法人全日本トラック協会と連携し、トラック運送業界全体のCO ₂ 排出原単位を2005年度比で31%削減することを目標（全日本トラック協会策定【トラック運送業界の環境ビジョン2030】より）」
13	川崎工業振興倶楽部	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「会員企業にとって「有効で有意義な情報」を入手の都度、倶楽部のホームページに掲載し、情報提供による広報啓蒙活動を実施する。Ex「ccかわさきエコちゃんずメールマガジン」「スマートライフスタイル大賞受賞会員の紹介」等をしていきます。」
14	メビウスパッケージング(株)川崎工場		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「メビウスパッケージング全事業所（エコアクションプラン2030）の取り組み 1、循環型社会の実現に貢献する ・再生樹脂・植物由来樹脂の使用率 30%以上 ・リサイクル可能な製品仕様 100% 2、低炭素社会の実現に貢献する ・事業活動（Scope1・2）での生産重量あたりCO ₂ 排出量50%削減※ ・サプライチェーン（Scope3）での販売重量あたりCO ₂ 排出量30%削減※（※2019年比）していきます。」
15	EM普及活動研究会		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに 「①EMによる生ごみリサイクルの普及活動を過去20年間継続してきました。これからも更なる20年を目指し、活動してゆきます。②市内小中学校における、環境授業の派遣授業の継続。③市内の農家さんの依頼による、竹や木材・収穫残渣を無煙炭火器によるEM整炭炭づくりの支援活動を行います。」

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
16	日本海工株式会社東京支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・陸上重機を順次更新し排出されるCO ₂ を削減します。 ・作業船での使用燃料を順次重油から軽油に変更し排出されるCO ₂ を削減します。 ・事務所での電力使用量を基準年度比（2021年）から3%の削減をいたします。 ・環境関連イベントやセミナー等に参画し社会的貢献と社員の啓蒙を図ります。
17	昌栄電設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに [環境方針] 環境関連法規、条例等を遵守すると共に、以下方針を全社に周知し環境経営の継続的改善に努めます。 1. 二酸化炭素排出量削減 2. 一般廃棄物排出量の削減 3. 産業廃棄物リサイクル率の向上 4. 水使用量の削減してまいります。
18	国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに 2013年度を基準として、機構の事務及び事業に伴い直接的に排出される温室効果ガスの総排出量を40%削減することをめざしてまいります。
19	一般社団法人 川崎市商店街連合会	○	業界団体	商店街の街路灯のLED化を促進します。 省電力型の防犯カメラの設置を促進します。 商店街において温室効果ガスを削減できるよう、会員間の情報共有を図って参ります。 再生可能エネルギーを導入するよう働きかけを行ってまいります。
20	株式会社 渡辺土木	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「炭素排出量を50%削減」してまいります。
21	あおみ建設株式会社横浜支店 川崎営業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、あおみ建設社有車を「2030年」までに※電動車100%かつEV車30%以上の導入率を目標とする。 ※電動車：EV車、HV車、PHV車、FCV車の4種
22	株式会社エイワ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに ○ 太陽光設備の設置を導入します。 ○ 営業車を5台次世代自動車にしてまいります。 ○ 照明を100%LED化します。 ○ 事務所外壁改修時に省エネ効果のある遮熱塗装を実施します。 ○ 2023 住宅省エネ支援事業者登録をして客先にキャンペーンを周知します。
23	株式会社大本組 横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030～2040年度」の出来るだけ早い段階までに 「施工における二酸化炭素排出量の2013年度比40%削減を目指して取組みを推進」してまいります。
24	株式会社村瀬造園		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに 1. 社員の意識啓発を行い、CO ₂ 排出量を50%削減します。 2. 照明を50%LED化します。 3. 営業車1台を次世代自動車にします。 4. 環境に配慮した機器・機材を導入し、電気使用量を50%削減します。
25	川崎臨港倉庫埠頭株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに省エネ及び二酸化炭素の排出量削減のため、2023年度から2030年度までに当社倉庫の既存照明設備をLED照明に更新するほか、カーボンニュートラルにかかわる取り組みを進めて行くことを目標とします。 併せて、川崎港コンテナターミナルのカーボンニュートラル化を目指します
26	川崎市工業団体連合会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「会員企業全てが脱炭素行動宣言を行い、脱炭素行動を実施していくように」してまいります。
27	ビッグバン株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「照明のLED化や老朽化した高圧受変電設備の更新工事などを通じて省エネで快適な生活に貢献」してまいります。
28	独立行政法人環境再生保全機構	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「電気使用量による温室効果ガス総排出量を2013年比（基準年）で50%削減。」してまいります。
29	公益社団法人川崎港振興協会		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までの間 以下の項目を重点的に取り組んでまいります。 ・会議資料等のペーパーレス化及び会議のリモート化 ・廃棄物の減量化
30	三和クリエーション株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量を2020年度比30%削減」してまいります。
31	三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、サステナブルファイナンスを推進してまいります。
32	日崎工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、弊社は「2030年」までに Scope 1およびScope 2におけるCO ₂ 排出量、実質0を目指してまいります。
33	かわさき市民共同おひさまプロジェクト	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「川崎市内に再生可能エネルギーを活用した施設を増やす活動をします。住宅、福祉施設、地域の避難所などへの太陽光発電、農地での営農型太陽光発電を増やすことを目標として、普及活動、提案・助言活動をしてまいります。
34	NPO法人アジア起業家村推進機構と会員（DELE株式会社）の協働	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「世の中の情報機器の廃棄物ゼロを目指」してまいります。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
35	和光産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに「ワックス清掃においてワックスグリーンクリーニング（3R資源循環型清掃/低CO ₂ 川崎ブランド認定）を拡大して、溶剤を含む剥離剤の使用量を2022年度比で70%削減、剥離廃液（産業廃棄物）を減らしてCO ₂ 削減への取り組みを」していきます。
36	日本電気株式会社	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに「グローバルNEC全社で、サプライチェーンCO ₂ 排出量のネットゼロを目指していきます。」
37	株式会社仲栄工事		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「本社の使用電力を再生由来の電力に切り替え」していきます。
38	ソーラーチーム		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「自然エネルギーの中でも、市民が取り組みやすい太陽光発電、太陽熱利用システムを利用する人が増えるように、普及啓発活動を行います。川崎市地球温暖化対策推進基本計画の2030年CO ₂ 半減、2050年までにゼロ目標、川崎市の再エネ推進の施策を伝えて、取り組みを促進」していきます。
39	旭化成株式会社 製造統括本部 川崎製造所	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、GHG排出量30%以上削減(対2013年度)を目指し計画を具体化していきます。
40	東都熱工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2028年」までに ・社用車の全てを次世代自動車にします。 ・照明を100%LED化します。
41	日本ダスト株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「低CO ₂ 川崎ブランドに認定されたNDK資源リサイクル工場での中間処理サービスを通し、排出事業者様より収集した混合廃棄物を選別、破碎し多岐にわたるリサイクル処理先へお渡しすることで炭素の排出量を削減し廃棄物に新しい命を吹き込み環境保全に貢献」していきます。
42	学校法人明治大学	○	学校	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2033年」までに「1、環境に配慮した機器を導入 2、節電要請に伴う校内放送 3、クールビズ・ウォームビズの実施 4、リサイクルの徹底」していきます。
43	一般社団法人 川崎市電設工業会	●	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに「1、蓄電池を活用して、現場作業での排ガスゼロを達成する。 2、会員各社のEV化を促進する。会員各社の社用車のEV化の進捗・EV化率について、毎年調査。」をしていきます。
44	プレス工業株式会社 川崎工場		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「高効率設備導入、生産工程見直し、生産性向上、生産工法の改善、業務効率化等の諸施策を推進し 2019年度比 21%削減 1,044t-CO ₂ 削減します。」していきます。
45	鹿島環境設備株式会社		企業	「2030年」までに電動化自動車の導入30%を目指します
46	佐野デザイン事務所	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、引き続き「2050年」までデザインが貢献できるエコ・サステイナブル活動を推進していきます。 例えば、製造時・使用時・廃棄時における環境負荷の低減。環境効率のスムーズ化。商品の長寿命化。材料のリサイクル、商品のアップサイクル、使い捨ての削減、等エネルギー消費を抑え、二酸化炭素排出を抑えながら、スマートな生産モノづくりと、ライフスタイルを目指します。
47	東京電力エナジーパートナー株式会社 販売本部 南関東本部		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに●法人企業向け CO ₂ ゼロメニュー販売量 100億kWhを目指します。
48	特定非営利活動法人アクト川崎	●	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに川崎市が「脱炭素して豊かな暮らしを実現する社会」になるよう努力して参ります。そのために、川崎市民・事業者とともに「脱炭素した豊かな暮らし」を描き、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。特に、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組みます。
49	ウエイズトヨタ神奈川株式会社 満ノ口店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに太陽光発電システムや蓄電池の導入など「カーボンニュートラル店舗の設置」を推進していきます。
50	川崎市新エネルギー振興協会	○	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに温室効果ガスを80%削減に向けて地域社会の方々に広報活動及び啓蒙活動をする。
51	株式会社イスズ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、以下を取組むことを宣言します。 ①太陽光発電を10MW以上施工し、年間3000t-CO ₂ の脱炭素に寄与します。 ②オフグリットトレーラーハウス及びその他オフグリット施設を100箇所以上設置し、年間60t-CO ₂ の脱炭素に寄与します。 ③川崎市主催等の脱炭素事業に毎年積極的に参加をし、脱炭素取組のPR、周知に注力します。 ※CO ₂ 削減の条件として、太陽光発電1kWhによるCO ₂ 削減量を0.312kg-CO ₂ としています。
52	麻生区クールアース推進委員会	○	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「麻生区クールアース推進委員会は、地球温暖化の現状を多くの市民に知ってもらい、解決に向けて共に行動する人々を増やすため、区役所と協働して自然エネルギーや省エネルギーなどの普及啓発活動を進めて」いきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
53	丸井・マルイファミリー溝口		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2026年3月期」までに「CO ₂ 排出削減量100万t以上」を実現していきます。
54	生活協同組合ユーコープ	●	業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量を2013年度比51%削減」していきます。 ①店舗改装時のエコストア化（店舗の冷凍・冷蔵設備、空調、照明を高効率なものに入れ替え） ②宅配センター新設（冷凍・冷蔵設備の省エネ化、太陽光発電設備の設置、電気自動車） ③再生可能エネルギーを使用した電力会社からの電力調達 ④ユーコープのCO ₂ 排出削減の取り組みや到達点などのお知らせを内外に向けてお知らせ
55	株式会社川崎フロンターレ	○	企業	脱炭素社会の実現に向けて、川崎フロンターレのホームゲームや地域活動を通して市民への周知活動を推進して参ります。
56	ノーティス株式会社		企業	環境関連事業（リユース連携事業やアップサイクル事業）を「2030年」までに事業売上比200%以上に向上させます。
57	かわさきかえるプロジェクト	●	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「人と自然が共生するエコシティ川崎」を目指し、市民活動による地域資源循環と、再生可能エネルギーへの取り組みを広げ、環境まちづくりの取り組みを広げます。
58	株式会社マイルストーンジャパン		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、太陽光発電所の建設に関する機器の提供を通し、今までに建設できない困難な地盤の場所に有機的に効果を出す製品の開発を行い、事業者や需要者に対して価値を見出してまいります、また自社消費型で再生可能エネルギーを取り入れ「2030年」までにオール電化にできるように取り組みます、そして弊工場においては、全てを蓄電された電気で賄えるような移動式のトレーラーハウスを事務所に変更し、安全に配慮した取り組みを同時に進めて参ります。
59	行政書士四季京法務事務所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに弊所の二酸化炭素排出量を半減させていきます。
60	味の素株式会社川崎事業所	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「温室効果ガスのNet Zeroを達成」していきます。
61	スナイブパレー合同会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「地球温暖化/海洋温暖化への意識啓蒙を図るセミナーを毎年開催」していきます。
62	川崎市立平間小学校		学校	「2030年」までに地域や企業等と協力して炭素排出量を減らすために取り組みます。
63	株式会社富士通ゼネラル		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「温室効果ガス排出量（スコープ1,2）を実質ゼロ」にしています。
64	川崎市地球温暖化防止活動推進センター	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2030年」までに「かわさき市民と「脱炭素した豊かな暮らし」のイメージを共有し、2030年には、二酸化炭素の排出量の50%削減に向けて取り組みます。そのために、学校での環境学習、地域での脱炭素アクションの普及に取り組み、川崎市のさまざまなシステムが『脱炭素が容易に行える社会制度』になるよう努力して参ります。」
65	京急建設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2019年度の主要な工事事務所の電気、ガソリン、軽油、都市ガス、LPG使用によるCO ₂ 排出量386t-CO ₂ を247t-CO ₂ （36%）まで削減」していきます。
66	N T T 東日本川崎支店	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて ・「2030年」までに一般車両のEV化100%を目指します
67	CCあさお		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2024年」までに川崎市「脱炭素行動宣言」の実施に賛同し、川崎市の地球温暖化防止を推進するため、麻生の環境を守り自然と調和した脱炭素活動及び啓蒙活動を行う。また、様々な主体との協働での取組みを推進する。なお、当宣言は2年ごとに見直しを行う。
68	総合警備保障株式会社 川崎支社		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、「2030年」までに「社用車（乗用車26台）（2輪、3輪バイク11台）のエコカー化80%」を目指していきます。
69	株式会社エコプロ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2023年」までに「弊社内ごみ減量化90%達成」していきます。
70	荏原実業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「企業活動における環境負荷改善を実施し、温室効果ガス排出量を削減」していきます。
71	N-システム株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2030年」までに ・仕事柄省エネ工事を行って居り、空調設備、衛生設備、電気設備の省エネを提案し、インバーターによる電力の省エネや風量省エネを提案し、仕事に結びつけていく。 ・事務所内の電気(電力)使用量を減らすため不要な電気を切り削減する。
72	株式会社リットアップ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、プラスチック製品の使用を「2025年」までに削減していきます。
73	カミング・スーン合同会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「100%再生可能エネルギー化」していきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
74	株式会社シーエスデー		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに 「株式会社シーエスデーは、ソフトウェア・製品の開発から原材料・部品などの調達、製造、流通などすべての過程において、 【地球温暖化防止のための低炭素社会の実現】 【資源の循環的・有効活用による循環型社会の実現】 【人々の健康や自然生態系、生物多様性を保全するための自然との共生】 に配慮し、地球環境への影響を可能な限り減少させるよう、自主的・積極的に行動」してまいります。
75	東洋建設株式会社横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量を45%以上削減（2013年度比）することを目標」してまいります。
76	大和塗装株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて「2050年」までに照明の90%以上をLED等の省エネ照明に更新します
77	マイルド産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「廃プラスチック類のマテリアルリサイクル率を5倍（※弊社2022年度取扱基準）とし、適切なリサイクルを促進」してまいります。
78	福吉塗装株式会社		企業	2050年脱炭素社会の実現に向けて、「2024年度末」までに化石燃料使用量の削減（基準実績の3%削減）してまいります。
79	株式会社井の雅組		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量を1.5%削減します。」
80	重田造園土木 株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。
81	株式会社 重田組		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに照明を80%LED化します。
82	花王株式会社 川崎工場	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までにカーボンゼロ、「2050年」までにカーボンネガティブを達成するため、脱炭素目標を策定し、SBTi (Science Based Targets イニシアチブ) から2019年認証取得した「2.0°C目標」に加えて、「BusinessAmbition for 1.5°C」への署名により、SB T 1.5°Cを目指します。 また、国際的イニシアチブ (RE100) への参加により、2025年までにすべての購入電力を再生可能エネルギーにしてまいります。
83	株式会社丸井電設		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「会社建物をNearly ZEB化」してまいります。
84	株式会社タマック		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・施工棟数の半分をZEH住宅とし、15%CO ₂ 削減に貢献します。 ・再利用可能な住宅建材の採用で、CO ₂ 削減に貢献します。 ・社内ペーパーレス化により、「紙の節約」「ごみ減量」をして、CO ₂ 削減に貢献します。 ・リモート管理による車両移動を削減し、10%のCO ₂ 削減を目指します。 ・WarmBizによる適切な冷暖房の利用で、5%電気使用量を削減します。
85	DELE株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「取引先すべての情報機器の廃棄物ゼロを目標」してまいります。
86	東亜建設工業株式会社横浜支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに ・川崎国際環境技術展に継続して出展し環境技術の普及に努め、建設工事現場のCO ₂ 削減に貢献します。 ・社用車2台を次世代自動車にします。 ・再エネ電力の導入を促進します。
87	栄石油株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO ₂ 排出量を30%減少」してまいります。
88	株式会社互幸ワークス		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、①再生可能資源等を材料として製造された資機材の使用率を30%以上とします。②使用年数10年以上のOA機器（複合機）1台を省エネタイプを導入する。③社有車（営業車）5台をハイブリット車など次世代自動車を導入する。以上を目標として脱炭素化に向けた取組みをしてまいります。
89	川又電機工事株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・太陽光発電設備と蓄電池を導入し、電気使用量・CO ₂ の削減を目指します ・事務所内の空調機を高効率機器に切り替え、電気使用量・CO ₂ を削減します ・蓄電池等を利用し、工事現場でのCO ₂ 削減を目指します ・社有車のEV・PHEV化を進めます
90	R N建設株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「日本が目指す2050年GHG実質排出ゼロの実現に向けて取り組み、バックキャストの視点でプロジェクト「RN THE FUTURE PROJECT」を策定。2030年及び2050年をマイルストーンとする豊かな未来と確かな価値を創造」してまいります。
91	労働者協同組合労協センター事業団		業界団体	2050年の脱炭素社会に向けて、 社員の意識啓発を行い、CO ₂ 削減に取り組みます。 ごみの分別を徹底し、ごみの削減に貢献してまいります。
92	有限会社 宇佐美		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「2020年を基準とした燃料使用による二酸化炭素排出量を25%削減」してまいります。
93	かわさき環境教育学習プロジェクト		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まず、「2030年」までに「脱炭素社会に向けた場づくり」を行なっています。
94	岡村建興株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2027年度」までに ・SRコンクリートの製造により、2022年度比20%以上のCO ₂ 削減及び産業廃棄物の削減 ・社内照明のLED化 してまいります。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
95	武松商事株式会社		企業	2050年の脱炭素社会実現に向けて「2023年度」までに自社より排出する廃棄物を削減します
96	株式会社レゾナック川崎事業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「CO ₂ 排出量30%削減（2013年比）」していきます。
97	東京電力パワーグリッド株式会社 川崎支社	○	企業	●東京電力グループでは、「EV100」に参画し、「2030年」までに業務車両の100%電動化を目指しています ●東京電力パワーグリッド株式会社では、産業廃棄物等のリサイクル率99%以上の達成・維持に取り組んでおり、川崎支社では、「かながわプラごみゼロ宣言」を行い、プラごみ・紙ごみ等の区分や注意点をわかりやすく掲示し、ごみの分別を徹底します。
98	株式会社横浜銀行	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年度」までに横浜フィナンシャルグループにおいて、以下のことを実現していきます。 ①サステナブルファイナンス実行額を4兆円 うち、グリーンファイナンス2兆円 ②Scorp1,2におけるカーボンニュートラルの実現
99	株式会社エス・イー・アイ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに、川崎市のCO ₂ 排出量半減に貢献していきます。 その実現に向けて、地球温暖化や気候危機を取り巻く課題の共有や、必要なアクションについて考えていただける「CO ₂ 排出量半減をシュミレーションできるカードゲーム【脱炭素まちづくりカレッジ】を活用したワークショップ形式の講座を提供致します。
100	株式会社Den		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、「2025年」までに都市緑化によるカーボンニュートラル推進に関するアクションを具現化させます。
101	株式会社ノクチ基地		企業	私たちは2050年の脱炭素社会実現のため、メディアやコンテンツの発信を通して市民の行動変容を後押ししていきます。
102	ヤマト運輸株式会社 川崎主管支店	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「電力消費に伴うCO ₂ 排出の段階的削減に向けてEV車両を高津区へ集中的に導入」していきます。
103	株式会社リベラルコーポレーション		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「高津区の全企業が脱炭素アクションみぞのくち推進会議会員になるよう行動する事」をしていきます。
104	川崎港運協会		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「カーボンニュートラル化」を推進します。
105	山九株式会社 首都圏DC支店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までにCO ₂ 排出量▲42%を目指します。(2020年度対比)
106	かわさき生活クラブ生活協同組合		業界団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに「再生可能エネルギー主体の生活クラブでんきへのスイッチング推進、自家発電消費型の施設の拡大、自前および関連施設における省エネ型発電設備の導入促進、事業から出るCO ₂ の排出量を2013年度比50%まで削減」をしていきます。
107	東芝エネルギーシステムズ株式会社 浜川崎工場	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・省エネ活動（節電、教育等による意識啓発等）を行い、CO ₂ 削減に貢献します。 ・環境に配慮した高効率機器を導入し、1%/年の電気使用量を削減します。
108	JFEスチール株式会社東日本製鉄所（京浜地区）	○	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 ・「2030年」までをトランジション期と考え、低炭素鉄鋼プロセスへの転換を推進します。 ・「2050年」までをイノベーション期と定義し、超革新技术の確立・実装により、カーボンニュートラルの達成を目指します。
109	株式会社ブリマジェスト		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「・企業のペーパーレス化支援と社内ペーパーレス化を併せて推し進め、「紙の節約」 ・「ごみ減量」を図り、CO ₂ 削減へ貢献 ・CO ₂ 削減に貢献するサステナブルなサービスの提供 ・環境関連イベント、地域イベント（植樹祭、市民150万本植樹、等）やセミナー等に参画することによる社会的貢献と社員啓蒙」 をしていきます。
110	有限会社廣田商店		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 弊社は産業廃棄物収集運搬業という直接環境に携わる業務を行っているため、資源循環型社会の構築の一端を担っていきます。
111	寺尾サッシ工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ① 製造工場の照明を100% LED化します。 ② 社有車の50%をEV・PHEV化します。 ③ 蓄電池等を活用し、工事現場でのCO ₂ 削減を目指します。
112	早野聖地公園里山ボランティア		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、炭素の固定化に貢献していきます。 また、CO ₂ 削減(大気中への拡散)を継続的に実施致します。
113	特定非営利活動法人みどりなからし		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 川崎市に暮らす子育て世代の方と「脱炭素した豊かな暮らし」をめざして、様々な企業や団体と連携し、広報活動や啓蒙活動を行います。
114	三井埠頭株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 2033年までに構内照明設備の90%をLED化していきます。 2033年までに業務車の90%を次世代自動車にしていきます。
115	Learning & Culture Innovation株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・二酸化炭素の排出量を削減します。 ・環境への貢献に関する社員の啓蒙を計ります。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
116	鹿島田商店会		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、まずは取組期間を3年間と設定し、環境問題への対策として誰もが実践でき、今からでもできる行動の選択肢を提示しながら、脱炭素社会における暮らし方を発信・実践する。省エネが生み出す経済循環、防災・減災や生活の質の向上など様々な地域の課題解決に繋げ、地域が一丸となって環境変化に対応していくことが目標である。
117	熱研プラント工業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「社有車のHV・PHV化を推進していきます。」 「環境に配慮した事務用品を購入・使用を推進していきます。」 「マイボトル・マイカップ普及に伴い、PETボトルの削減を推進していきます。」
118	株式会社ミットヨ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、 「2030年」までに二酸化炭素排出量（Scope1・2）を「2018年度を基準に50%削減」していきます。
119	川崎信用金庫	○	その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、環境配慮型金融商品の提供や地域の事業者の脱炭素経営の支援を行っていきます。 また、「2030年」までに、当金庫の二酸化炭素排出量を2013年度比で90%以上削減します。
120	信号器材株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに、CO ₂ の排出量や無駄な資源の低減を意識した製品開発・製造・施工・販売を行い、「脱炭素社会・循環型社会の実現」を目指します。
121	株式会社ロードカワサキ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2045年」までに ・工事業車全てをAT車に変更し、CO ₂ の削減に貢献します。 ・工事に用いる合材は、CO ₂ 削減のものを使用します。 ・社内の照明を全てLED化します。 ・社員の意識啓発を行い、CO ₂ 排出量を5%削減します。
122	医療法人社団 前田記念会 前田記念武蔵小杉クリニック		その他	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「医療機器の更新には、医療安全を担保し消費エネルギーの削減を実現します。」
123	エコガーデンはるひ野	●	市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、家庭から出る生ごみを堆肥化して花壇に利用することで「ごみの削減」に取り組んでいます。さらに取り組む世帯が増えるよう、ダンボールコンポスト講習会や花を題材にした講座を行い、参加者に呼びかけます。 また、今後は生ごみ堆肥だけではなく、植え替え時に抜いた花苗を落ち葉などと一緒の木枠コンポストで腐葉土を作る方向での取り組みを進めていきます。
124	GBTechnology株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2025年」までに「事業用自動車の燃費向上（2%）を実現」していきます。
125	株式会社研空社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに ・空調機入れ替え提案時は高効率機器を提案 全件数のうち提案率80%以上を目標 ・社用車をハイブリット車に随時入れ替え 2030年までに全台次世代自動車にする ・現場管理者のIPAD使用率を100%にする ・PPP、PFIの官民パートナーシップを通じて地域の経済的なエネルギー利用を提案。 川崎市内小中学校空調機更新時には省エネにつながる運用方法を使用者に提案。 小学生・中学生にも省エネの意識を持ってもらえるよう教室内に省エネ運用方法を掲示 川崎市の地域プラットフォームメンバーとしてセミナー、勉強会に参加。地域全体の省エネに貢献する。
126	川崎未来エナジー株式会社	●	企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、市域への再生可能エネルギーの普及・地産地消を推進するとともに、市民、事業者、金融機関等の多様なステークホルダーが参画できる地域エネルギープラットフォームの中核となります。
127	有限会社イシザキ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2035年」までに「CO ₂ 排出量を20%削減」していきます。
128	有限会社研精工業所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2024年に蛍光灯をLEDに交換します。
129	株式会社はまりハ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2050年」までに「訪問車をEV、PHEV、エコカーに」していきます。
130	川崎市で木育を広め隊		市民団体	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、私たちは、次世代に持続可能で豊かな環境をつなぐため、0歳から大人までが楽しみながら参加することができ、脱炭素について学び考えることができる「木育おもちゃの広場」「木育紙芝居」「木育クイズ」等の機会を創り続けてまいります。 イベントだけでなく、常設の「木育おもちゃの広場」が設置され、そこで継続的に啓発・教育・人材育成等の展開が可能になることで、より効果的に脱炭素社会の実現に貢献できると考えております。
131	株式会社 福田商店		企業	2050年の脱炭素社会の実現にむけて2050年内継続的に火育木育活動を地元市内、県内の子どもたちに訪問授業活動を行う 市内の里山に行き里山体験活動のプロデュース現地スタッフ活動を行う 火育木育イベントのプロデュースを行い開催する 市内の里山森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 県内の森林保全活動ならび次世代に継続するための協賛活動を行う 2050年以降につきましても継続的に行う
132	ハヤシ・アンド・カンパニー株式会社		企業	2050年までに脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに弊社対象商品の販売数を2倍に にして参ります。
133	かわさきマンション協議会		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、マンションの外断熱化・太陽光発電と蓄電池による共用部分及び専有部分への電気供給・EV充電スタンドの普及
134	京浜メンテナンス株式会社		企業	2050年の脱炭素社会に向けて、2026年までに開削工事より二酸化炭素を放出しない熱硬化や光硬化の工事を提案によりふやし、インフラの再整備・整備を進めたいと思っています。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
135	株式会社ラボラボ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに事務のペーパーレス化や移動の際は公共交通機関を主に使用していきます。
136	学校法人調布学園 田園調布学園大学		学校	2050年の脱炭素社会に向けて、 ・大学生、教職員の意識啓発（教育、研修等）を行い、CO2排出削減のための一層の行動促進を目指します。 ・節電、節水、ごみ削減を行い、CO2の排出削減に貢献します。 ・環境関連の学内外のイベントや活動を企画、参加し、CO2の排出削減に貢献します。 ・校内の緑化（植樹）活動を推進し、CO2の排出削減に貢献します。
137	株式会社 クレハ環境 ウェステックかながわ		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、自社の2030年度目標であるエネルギー起源CO2排出量削減※の達成と地域のカーボンニュートラルに貢献していきます。 ※削減目標30%以上（2013年度比）
138	松栄産業株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・省エネナビゲーションシステム(導入済)の利用や社内の啓蒙活動を行い、空調電力消費量を5～10%削減します。 ・社内の啓蒙活動を行い、ゴミの分別を強化することで、CO2の削減に貢献します。 ・コンポストを設置し落ち葉回収で作られた腐葉土を植栽や周辺地域への提供に利用し、緑化に貢献します。 ・環境に配慮した機器を導入し、CO2削減に貢献します。
139	株式会社エンカウンター		企業	<p>《株式会社エンカウンターカーボンゼロ宣言》</p> <p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、私たち株式会社エンカウンターは、地球環境の保護と持続可能な未来の実現に貢献することを企業の重要な使命と認識し、2050年までに事業運営における温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目指します。これは私たちの事業活動において積極的に環境負荷の軽減を推進し、温暖化対策に向けた真摯な取り組みを進めるための第一歩です。具体的には以下の取り組みを進めてまいります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの導入 自社施設や事業所において、再生可能エネルギーの利用を拡大し、クリーンエネルギーの導入を積極的に進めます。 省エネルギー対策の強化 省エネ技術を導入し、業務全体におけるエネルギー消費の効率化を図ります。 低炭素車両の導入 事業における輸送手段として、電気自動車や水素自動車を導入し、排出ガスの削減を実現します。 社員教育と意識啓発 社員一人ひとりが環境意識を高め、業務における環境負荷を最小限に抑える行動を取るための教育と啓発を行います。 地域社会との協力 地元コミュニティや取引先との連携を強化し、共にカーボンゼロ社会の実現に向けた活動を進めます。 <p>私たち株式会社エンカウンターは、環境に優しい事業運営を行い、未来の世代に豊かな自然を引き継ぐために、全社員一丸となって取り組んでまいります。持続可能な社会の実現に向け、今後も不断の努力を続けていく所存です。</p>
140	ダイヤエ工芸株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに ・工場内照明のLED化により電気使用量を15%削減します。(2023年度対比) ・電気使用量および二酸化炭素排出量削減状況を可視化し社員の意識啓発を行います。 ・再生可能エネルギーの導入効果を検証し、前向きに検討します。
141	株式会社ジェイコム湘南・神奈川 町田・川崎局		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、弊社は「地球環境への貢献」をマテリアリティに掲げ、自社の事業活動を通じて地球規模の課題解決に貢献する他、社会に対し環境問題等への取り組みの発信や行動の呼びかけを行っている。 具体的な取り組みとして「2030年度カーボンニュートラル達成」をグループ目標として設定し、目標の達成に向けて「省エネルギー」と「再生可能エネルギー」の2つの軸でさまざまな取り組みを推進している。 なお、「地球環境への貢献」として、カーボンニュートラルの他、資源の有効活用や自然環境負荷の軽減への取り組みも全社で行っている。
142	株式会社 古川鋼材		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、社用車をハイブリッド車・EV車へ切り替えていきます。
143	田園調布学園大学みらいこども園		学校	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、園児、保育教諭の意識啓発（教育・研究）を行い、CO2排出の削減のための行動を促進する。園内の緑化活動を積極的にを行い、CO2の排出削減に貢献する。
144	伸和エクセル株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに 「自社および仕入先などサプライチェーン全体のCO2排出量の現状を把握し、削減目標を設定」していきます。

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
145	Officeうりずん社会保険労務士・行政書士事務所		その他	<p>私たちは専門家としての責任を胸に、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、2030年度までに以下のとおり宣誓いたします。</p> <p>一、私たちは、地球環境の保全と持続可能な社会の実現が、現代のあらゆる活動の根幹にあると認識し、土業としての職務を通じて、その実現に積極的に貢献します。</p> <p>二、私たちは、自らの事務所運営において、省エネルギー・再生可能エネルギーの導入、ペーパーレス化、環境配慮型の働き方改革を推進し、温室効果ガスの排出削減に努めます。</p> <p>三、私たちは、法務・税務・労務・許認可など各専門分野において、クライアントの脱炭素経営への移行を支援し、グリーントランスフォーメーションの実現を後押しします。</p>
146	沖島建設株式会社		企業	<p>私たちは、建設業の一員として、2050年までにカーボンニュートラルの実現を目指します。</p> <p>省エネルギー施工、再生可能エネルギーの活用、環境負荷の少ない資材の導入を通じて、脱炭素社会の構築に貢献してまいります。</p>
147	有限会社アービル		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて</p> <p>①全作業車をハイブリットカー又はEVカーに変更する</p> <p>②社屋屋上に太陽光パネルを設置する</p> <p>③社屋の外壁塗装の際に遮熱塗料を使用する</p> <p>④社屋の防水工事の際には断熱工法にする</p> <p>⑤事務所の電化製品を省エネ製品に変更する</p>
148	小川電機株式会社		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向け、当社では再生可能エネルギーの活用に加え、建物全体の省エネルギー化を重要なテーマと捉え、2030年度までに以下の取り組みを推進してまいります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議資料等のペーパーレス化および会議のリモート化の徹底 ・再生可能エネルギー関連商材の提案・導入支援（太陽光・蓄電池・V2X等） <p>当社は2025年度にZEB Ready認証を取得した自社新築オフィスを川崎市内に竣工しました。地域におけるZEBの実装モデルとして、見学や情報発信を通じた波及効果を図るとともに、ZEB・再エネの普及啓発活動を積極的に展開してまいります。川崎市との連携を深めながら、地域ぐるみでの脱炭素社会の実現に貢献してまいります。</p>
149	株式会社ワールドクリーンプロジェクト		企業	<p>2030年度までにCO2排出量の削減を進めるため、資料や見積もり書のペーパーレス化の実施、作業用機器はバッテリーを活用、事務所電気のLED化によるCO2排出削減を実施していきます。</p>
150	きじま川崎店		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに</p> <p>①「エネルギー効率の向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内照明をすべてLED化し、省エネ空調を活用します。 ・厨房機器を高効率モデルへ計画的に更新します。 ・営業時間外の待機電力を削減します。 <p>②「食品ロス削減」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・季節の食材を活かした献立を工夫し、廃棄を最小限に抑えます。 ・食べきり運動を推進し、適量の提供と持ち帰り用の環境配慮型容器を導入します。 <p>③「お客様・地域との共生」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・店内掲示やSNSを通じ、環境配慮の取り組みをお伝えします。 ・地域の環境活動や川崎市の「脱炭素行動宣言」普及に協力します。
151	株式会社リブワークス		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業で排出するCO2量を、2023年度比50%以上削減します。 ・川崎市地球温暖化防止活動推進センターと連携して、川崎市民に対して、住宅の断熱リフォームの啓発活動をさまざまな形で行ない、川崎市内の住宅の節電化に貢献します。
152	東京メータ株式会社		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2040年までに、省エネ診断で中小企業を支援し、川崎市全体のエアロス削減を推進します。また、再生可能エネルギー教育やスマートシティ装置活用を通じて、次世代人材の育成に貢献します。</p>
153	不二サッシ株式会社		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネ設備および再エネ電力の導入により、自社排出量（Scope1,2）を42%削減（2021年度比） ・アルミリサイクル率向上およびサプライヤーとの協力により、サプライチェーン排出量（Scope3）を30%削減（2021年度比）してまいります。
154	株式会社サンテック		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社員の意識啓発を行い、CO2排出量を30%削減します。 ・環境に配慮した設備を導入し、30%電気使用量を削減します。 ・社有車をHEV, EV車に更新し、30%CO2排出量を削減します。
155	K R E 株式会社		企業	<p>2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2030年」までに</p> <p>ZEHやZEBなど、高性能な省エネルギー住宅や建築物の普及</p> <p>既存住宅に対する、断熱性能向上や高効率設備の導入を、丁寧に・積極的に提案ペーパーレス化の促進</p> <p>エアコン等の適切な温度設定、空調機器のフィルター清掃、こまめな消灯・節電など、日常業務における省エネルギー公道や環境配慮の意識向上の促進</p> <p>をしてまいります。</p>

No.	団体・事業者名	会員	形態	宣言文
156	フロントラインテクノロジー株式会社		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに ①ごみの削減の為「ペーパーレス化」を推進し一般廃棄物排出量30%削減（2024年度対比）します。 ②クールビズ・ウォームビズの実施を行います。 ③事務所緑化計画をします。 ④社用車のアイドリングストップ機能を活用し不要なCO2を削減します。 ⑤節電による電力量の抑制を通じCO2排出量を削減します。
157	有限会社ダイコー精機製作所		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、2030年までに、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の把握を継続し、可能な範囲で削減に向けた取組をしていきます。 1、省エネルギーの推進 生産設備や付帯設備の運用改善、老朽設備の更新検討等を通じて、エネルギー使用量の削減に取り組みます。 2、排出量管理の高度化 継続的な排出量モニタリングを行い、データに基づいた改善活動を進めます。 3、再生可能エネルギーの活用検討 再生可能エネルギー由来電力の導入や活用について、事業規模に応じた方法を検討します。 4、資源循環・廃棄物削減 金属スクラップや副産物の適正管理・再資源化を進め、資源循環型の生産活動を目指します。 5、従業員の意識向上 日常業務における省エネ行動の定着を図り、全社的に脱炭素への意識を高めます。
158	株式会社ウィッシュコーポレーション		企業	2050年の脱炭素社会の実現に向けて、「2040年」までに「送迎車両に電気自動車を導入」していきます。

企業 120 件
 市民団体 15 件
 業界団体 12 件
 学校 4 件
 その他 7 件
計 158 件

※2026年5月1日時点